

八十八夜のあ茶

昨日今日と午年八時かゝる考案持案という

歌着組が流小ている

いゝ恋だつたばかりでないうつらい思ひを

雨珠してしるまい気持が洗わぬわりのど

しつこくな音響をと思ふ

それとしてみてもきたことの歌はありだ

放送局もたのしい歌 希望のもてるものばかり

り流しての蛇せいかと思ふ

先日ウガイの命を声の話をきいた単純に

ホーホケ平野と思つていたからいかに

たとひこといつの間にホーホケ平野になる

てしよ、だがこの方が美しいといふ

いふとりだろうと想像するにたまたま

人は想像する力がある 想像の力に気が

るのが個性か否かと思ふ

人が個性ばかりでなく電気製品、パソコンにも

りそうだが二十一度に決定するといふ

かニヤ四、五度になつていゝ電響だから

夜ねの露二十一度にしておくとニヤ四、五度に

右の通り

耳ついで一昨日熱中症もどきになったし(茶)
 た 頭が「グー」として気持ちわるい、心と
 し、いらぬないが動くことも出来ず、これ
 で一帯の終りか午と息つてしつた
 それとで昨日は希望の温泉まで行くことにした
 温泉 女4人でよく気遣もして行くことを
 せ知つた上で「モエ」の洞窟を12の左か
 ついねとてしつた
 せ、くやみで自在さす、かせだ
 二れせ、エア、この洞窟はろろか

春心子の怪意もうじおでききながらつてし
 子つた 音令君の氣をうけようと言われ
 し、この自分か音令君でつてことわかれ
 り
 今日ハチハ夜でつてはわかれの
 すいしお茶をゆめたし